

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200740	事業の開始年月日	平成13年4月1日	
		指定年月日	平成13年4月1日	
法人名	医療法人ゆりの会			
事業所名	グループホームゆり苑			
所在地	(〒221-0802) 神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果 市町村受理日	平成25年3月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、職員が同じ時間を過ごし、私達職員がお手伝いさせて頂いていると言う気持ちを持ち、各入居者がその人らしく、その人が望む時間を過ごし送れば良いと思います。高齢になり身体や心に不安を抱えている事を相手の立場になり考え私達職員一人一人が認識する事でより良い時間を過ごして頂ければと思っています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年2月20日	評価機関 評価決定日	平成25年3月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の優れている点】**  
 ◇「医療法人ゆりの会」の傘下であり、隣接する齊田医院が全面的に日常の医療、健康管理にあっている。また脳神経外科、眼科、歯科は従来の掛かりつけ医との連携を大切にし菊名総合病院とも密接な関係にあり、利用者と家族に大きな安心感を与えている。  
 ◇「自由」「自立支援」「自己決定」を理念として掲げ、利用者には、「喫茶店でのお茶飲み」や「プールに行ったことがないので遊びに行きたい」との要望に対して個別に支援し、専門医での治療についても本人の希望をよく聞いて対応する等、少人数の特性を活かし心のこもった支援をしている。

**【事業所が工夫している点】**  
 ◇事業所は商店街の中央に位置し、食材をはじめ施設運営に必要な生活用品を地元で調達しており、利用者も含め商店街の一員として地域に密着した関係を築いている。  
 ◇屋上を活用して、バーベキューを行い花火見物をするなど、限られたスペースを活用して楽しく生活できるよう工夫している。  
 ◇これまでの行事内容を、食事を中心に写真を付けて記録し、次の行事を企画する際の参考にしてている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ゆり苑
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人職員が地域に関心を持ち地域の出来事や参加を入居者に促し興味を持って頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自由」「自立支援」「自己決定」を理念とし、ミーティングの席や、日常のケアの場で確認しあうなど、現場に即し実践している。</li> <li>・管理者は、ケアの実務経験を活かして利用者と話し易い人間関係を築き、理念の徹底に努めている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用出来る地域の施設などを活用している。買い物など一緒に行き地域商店街などの交流をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の一員として、地域の行事に参加するなど交流している。</li> <li>・斉田医院と共に、設立時から地域の一員として認知されており、食材の調達から利用者の個人生活にも地域と関わりは大きい。</li> </ul>	一階に薬局ができたことで、地域での事業所の認知度が落ちている対策として、地域の行事に、利用者と共に積極的に参加して、知名度を向上させることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	口コミでの介護相談業務が定常化しています。管理者が中心になって相談に訪れた人への介護支援をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を開催し、地域参加した状況や今後の予定の報告、インフルエンザ、ノロウィルス季節の感染症対策の報告をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者・家族、民生委員、地域包括支援センターの職員が参加して、2か月ごとに開催している。</li> <li>・事業所の運営や利用者の状況報告の後、非常時の地域との協力体制づくりなど多岐にわたり意見交換を行い、運営に活かしている。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者が多く入居しているので、区役所の保護課の連絡を取り合い入居者ご本人にとってより良いケアサービスに繋げている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の案件を中心に、区役所の担当課とは日常的に連絡を取り合っている。</li> <li>・施設運営についてもアドバイスを受け、利用者へのサービスについても、相談に乗ってもらっている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険性がない限り玄関の施錠などはしていない。身体拘束をする必要がないよう毎日努力している。	・言葉遣いによっても拘束になることを理解し、職員同士で注意し合っている。 ・玄関を含め施錠はしていない。本人の意思を尊重し行動は見守りに徹し、安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束とは身体だけではなく、精神的な面まで幅広いことを、全ての職員に指導し勉強会などもしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解不十分な所は研修などに参加して勉強をしている。現在支援を行なっている入居者がいるので地域の支援サービスなどと協力して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者のご家族との契約等については十分な説明を行ない、お互い行き違いのないようにしている。又、ご家族の不安等についても時間をかけ話し合いをしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の意見、要望などは管理者が中心となり職員と話し合い運営に反映している。	・利用者とは、日常会話の中で希望を聞き、家族とは、来訪時に意見や要望を聴いている。 ・来訪の少ない家族には、利用者の写真も入れて状況を報告し、電話で情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何かあればその都度職員と話し合い個別の意見交換をしている。又、職員全体で話し合い提案された良い物を反映している。	・管理者は職員と共に日常ケアに当たっており、日々のミーティング、カンファレンス等でも、職員の意見や提案を聞いてサービスの改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の理事会を開き報告している。運営状況の中で説明を受け職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に必要な研修を受けさせている。又、興味のある研修には積極的に参加できるよう常に情報提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	少しずつではあるが、交流に至っている。定期的な顔合わせ、連絡をし情報交換などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、又は職員から聞いた事をご本人と直接話し、困っている事や不安を聞き一緒に考え、ご本人にとって一番良い方法を考えて関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や問題点をお聞きし一緒に考えご家族、入居者ご本人の一番良い方法を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がその時必要としているサービスが弊ホーム内で提供できないときには、話し合いで解決するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は同じ生活者としてお互いに向き合うように努めている。この人間関係作りがグループホームの真髄と考える。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しても、上記項目の実施状況と同じである。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	職員一人一人がこの街の住人だと意識し入居者にも支援をうながしている。	・利用者の経歴と経験を大切に、従来の関係の継続を支援している。特に、地元の出身者は、近隣の馴染の商店街に自ら、また職員と一緒に出掛けて買い物をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事などを増やし同じ話題を持ってもらい、職員と入居者同士が気軽に声を掛けられるような環境作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者になってまだ日が浅い為、今後徐々に交流を深めて行きたいと思っている。前任者は利用終了後も続けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者や職員の言葉に耳を傾け、日常生活を目にして入居者が何を思っているかを毎日確認しながら生活して頂いている。	・利用者全員とコミュニケーションが可能なため、日常のケアの中で、また個別にゆっくり話を聞くことで、思いや意向を把握して日々のケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活がどのようなものであったか、近親者から情報を頂き入居生活に生かす様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員配置を厚くして観察の目を増やし、入居者の生活状況について身体的精神的両面からの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、職員、主治医、訪問看護師等色々な人から意見、助言を頂き本人との話し合いの下に介護計画を作成している。	・アセスメントを参考に、家族と本人の意向を確認し、主治医や訪問看護師の助言を入れケース会議に諮って、介護計画を作成している。 ・計画は通常4か月ごとに、状況によっては随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度のミーティングや必要に応じて会議を開き職員間での情報交換などを実施し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化に向けての思いが職員の中にあるが、実現化するに当たってのプロセスが描ききれておらず、まだまだ時間を要するのが明らかな状況です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の持つ施設、自治会、積極的に関わって頂ける商店街の人たち、幼稚園の先生たちの応援を頂きながら楽しめる支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長くお付き合いしているかかりつけ医との関係を大切にして情報の交換に努めている。	・日常の健康管理、治療は同一法人で隣接の齊田医院が行っている。 ・精神科、外科等の専門医は、かかりつけ医との関係を大切に、本人の意思を尊重して受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を増員して勤務上の配置を厚くしています。主治医診療所が隣接する為容易に往診も受ける事が可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、入院先主治医、弊法人医師看護師、介護職員が一体となって情報交換を行い、利用者の早期退院、再入居に常時備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人、家族との話し合いを持ち本人、家族の希望に沿って重度化したとき、終末期の対応に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内での長期間の終末対応は難しいが、本人、家族の意向を尊重し医療機関との連携を密にして可能な範囲で対応している。</li> <li>・重度化した場合は、次の受け入れ先の相談に乗り、安心してもらえるように努めている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員一人一人に意識を持ってもらう為に避難訓練、にプラスしAED使用方法など年2回の訓練を行い定期的に急変時の対応などの確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	神奈川消防署の尽力を頂き、更なる地域との連携協力体制を築く事ができました。本年よりAED使用方法も取り入れた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各階にスプリンクラーを設置しており、自治会、消防団とは緊急時の支援の覚書を交わしている。</li> <li>・年2回消防署の指導と地域の協力を得て、3階の居室から1階まで避難する訓練を行っている。</li> <li>・備蓄は30食分を確保している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、職員がホーム内で共に力を合わせて生きることを目標としてホーム運営に努めており、入居者、職員はお互いに尊敬しあうことを日々実践している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者への声かけには、人生の先輩として敬意を払い、プライバシーを損なわないように気をつけている。</li> <li>・管理者は、利用者への言葉遣いや対応などで、その都度職員を指導している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者には色々な事を自由に発する事が出来る環境のばを作り自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースの時間の中に職員が入らせて頂いているという意識を、職員に持ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の入居者が気に入ってる物を職員は記憶し、入居者がそれを身につけた時は褒めて差し上げたりして、おしゃれに対しての意欲を引き出すような支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	順番に入居者への食事の好みを聞き提供しています。高齢者の料理にとらわれず安全に豊富な食事提供を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材は利用者の好みを入れ、地域の商店で調達し、季節毎の行事食、伝統食を取り入れて、食事に変化を持たせている。</li> <li>・調理の下ごしらえ、下膳、後片付けなどでは利用者も手伝っている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人に対してその日の食事摂取量、水分摂取量を職員は把握して、把握した内容によっては個別に必要な支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	問題なく毎食後口腔ケアを実施できている。必要に応じて職員が口腔内をチェックさせて頂き個別に介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄への配慮、工夫、支援は実施できている。ホームとして「排泄の自立支援」は重要ポイントとして位置づけている。	・利用者全員が自立しており、各自のペースでトイレに行っている。 ・職員はさりげなく排泄を確認後チェック表に記録しており、利用者ごとの排泄パターンを把握して、今後に備えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い便通に繋がる様な食材を使ったメニューで食事を提供し、水分摂取を適度に促し定期的にトイレに座る習慣を取って頂きながら便秘対策に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者一人一人が入浴を楽しめるような支援を行なってはいるが、曜日、時間帯を限定したもので実施しているのが現実である。	・毎週2回午後、利用者にはゆっくり入浴してもらい、職員との会話楽しんでいる。入浴を好まない場合は、清拭や足浴で対応している。 ・柚子湯や菖蒲湯で季節の移り変わりを感じてもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、消灯後入居者一人一人は他入居者に迷惑にならないような気遣いの下に自由な期間を送られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が服用している薬について一通りの理解はしており、症状の変化等が認められた時には主治医と相談するようにしている。使用している薬の再確認なども定期的にミーティングを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ある程度一人で自分の生活を組み立てる事の出来る入居者以外の方に、特に役割を持っていただくようにしてメリハリのある生活となるような支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関しては出来る限りの支援をしている。安全を第一に考え外出を希望される方は職員、ボランティア、家族の協力を頂いて外出支援を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子の方も一緒に、公園や商店街への散歩のほか、適宜、屋上での外気浴を行っている。</li> <li>・家族の協力を得て、駅伝を観戦したり、プールへ行くなど、個別の希望にも対応している。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方のみ支援しているのが現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればほとんどのケースで支援が出来ている。個人的には電話を持ちたい入居者には問題が発生しないなら個別に電話を持って頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の環境については特別な工夫はしないが、気持ちよく皆が過ごせるように入居者、職員ともに配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングは明るく、温湿度、照明、換気に配慮されており、異臭も感じられない。</li> <li>・窓辺に植木鉢を置き、壁には行事の写真を貼り、寛いで過ごせるよう工夫している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム自体が狭いスペースを利用したものであり、中々共有空間のなかで一人になれる余裕はない。気のあった入居者はお互いの部屋を歩き来して空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の望むような、本人が好むような空間作りに家族、職員は話し合いを持って実現に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者により、タンスや鏡台などの使い慣れた家具、テレビや家族の写真を持ち込んでいる方もいる。</li> <li>・家族や職員の協力を得て、本人の希望を入れて過ごしやすいように工夫している。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い勝手の悪いハード面を有する施設なので、入居者自身の安全、安心を考えた生活を一番に考慮している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームゆり苑

作成日 平成25年3月25日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	1階に薬局が出来たことで地域での事業所の認知が落ちている対策として、地域の行事に入居者と共に積極的に参加して知名度を向上させる	今以上に地域や町内会商店街を活用し、小さな行事などにも参加する。少人数のグループホームではあるけれどアピールを続ける	年間行事計画を来年度に向けて作る。苑の入り口の看板を「グループホームゆり苑」と付け直す	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。